

## 会 議 録

### 1 会議名

平成30年度 第8回高田区地域協議会

### 2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項 雁木の保存を考えたまちづくりについて(公開)

(2) 自主的審議事項 買い物弱者の発生・増加と中心市街地の衰退について  
(公開)

(3) 地域協議会 会長会議について (公開)

### 3 開催日時

平成30年11月19日(月) 午後6時30分から午後8時37分まで

### 4 開催場所

高田公園オーレンプラザ 会議室

### 5 傍聴人の数

0人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：西山要耕（会長）高野恒男（副会長）、吉田昌和（副会長）、  
飯塚よし子、浦壁澄子、小川善司、北川 拓、小竹 潤、小林徳蔵、  
佐藤三郎、澁市 徹、杉本敏宏、高橋浩輔、松矢孝一、宮崎 陽、  
山中洋子、山本信義、吉田隆雄

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

### 8 発言の内容

#### 【佐藤係長】

・大滝委員を除く18名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条1項の規定により、議長は会長が務めることを報告

#### 【西山会長】

・会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：高野副会長、小川委員
- ・青山捷一委員の死亡に関する報告。欠員に伴い補欠委員が決定するまでの間は、19名体制で行っていくことを説明。

**【澁市委員】**

動議がある。会議についての動議である。前回10月15日、さらにその前の9月10日の協議会における議事の運営について、必ずしも適切ではない運営があったと理解している。それについて議事運営の改善をするための動議を提出したいと思う。動議なので、全ての議案に優先して討論されるべきだと思う。資料を用意してある。

**【西山会長】**

資料を配布してよいかについて諮り、委員の了承を得る。

**【澁市委員】**

これは西山会長の議事運営の良し悪しに関わることなので、西山会長はこの件については議長を外れていただき、副会長のいずれかが議長をしていただくのがよいかと思う。

**【西山会長】**

分かった。今ほどの意見により、高野副会長から議事進行を進めていただく形にすることについて諮り、委員の了承を得る。

**【澁市委員】**

問題は「買い物弱者」の件について議論した10月15日の協議会の中身なのだが、その協議会の運営について、いろいろと問題点があったが。一番の問題点は、委員が合意したことに基つかないような議事運営をやったということだと思う。資料を読み上げる。

1番、10月15日に先立つ9月10日の協議会では、地域課題として「買い物弱者の発生・増加と市街地の衰退」を取り上げ、この課題の背景、現状、将来見込みなどを議論した。そして、行政の説明を聞いてから自主審議とするかどうか議論し、判断することで合意した。これについては、私は議事録で確認している。

このために、市の担当部局からこれらの課題についての話を聞くこととなり、そのための準備を会長をはじめ3役に依頼した。これは協議会として依頼し、議事録にも

載っている。

このような協議会での合意があつたにもかかわらず、西山会長は、9月28日付けで自主審議のための「提案書」を提出した。この提案書は、皆さんご存知だと思うが、非常に曖昧な部分が多く、協議会の議論の基礎としては適当ではなかったと考えている。

10月15日の協議会の議論からは、会長と事務局が、9月10日の協議会での合意を無視してこの「提案書」を提出したことがわかった。というのは、9月10日の協議会で、委員みんなで議論して、さらに判断しようということになったのだが、「提案書」という形で中身が出てきたということ。この事実から、今後の協議会の透明で民主的な運営を確保するために、本日、ここで「高田区地域協議会は委員の合意に従って運営されていくこと」を確認することを動議として提案したいと思う。

また、協議会の議事録を作成した事務局が、協議会の議論の内容を確認していたにも関わらず、西山会長の「提案書」を事前に配布した。このことは、事務局が十分に会長を補佐できていないことを示していると思う。この点については、事務局に改善を行うように要求する。

そして動議。1で述べた背景と問題点の分析をもとに、今日の協議会において、高田区地域協議会の運営に関し、西山会長が次の点を確認することを要求する。すなわち「高田区地域協議会は委員の合意に従って運営されていくこと」。独断とかそういうことはやめていただきたいということ。これを会長に確認いただきたいと思う。

また高田区地域協議会の事務局は、協議会の運営を改善するために、会長はじめ協議会委員を適正に支援することを要請する。

事務局の問題点はこれだけではなくて、例えば、地域活動支援事業のアンケートを質問の意味を解説せずに配布し、福祉交流プラザで地域協議会をやった際に、いろいろな問題が出た。さらには去年の11月頃だったと思うが、協議会の会議録を改ざんしたということもある。私としては協議会に、もう少しきちんとしてもらいたいということで、この点についても、事務局に要請したい。すなわち一番重要なことは、協議会というのは会長一人、あるいは執行部だけの意見、あるいは意思だけで、運営されていくのではない。協議会の全員が合意したことに基づいて、運営されるべきだと考えている。これが私の今日提出した動議の内容である。

**【高野副会長】**

今ほど澁市委員から動議が出され、資料の2番にある2点の確認を要求するということでも出された。

この中でまず西山会長が次の点を確認することを要求するということが出たので、高田区地域協議会は委員の合意に従って運営されていくという、この点について西山会長いかがか。

**【西山会長】**

申し訳ない。澁市委員から今いただいたことは、前回の会議でも指摘され、私の方の勘違いもあったが、提案書の方は取り下げた。大変申し訳なかった。そのことは私も重々反省する点ということで、これから気をつけたいと考えている。一応、高田区地域協議会は委員の意見、合意で進めているつもり、つもりと言ったら申し訳ないが、その趣旨で行っており、私一人の意見で議事運営をしているつもりはないと考えている。今後またそのように感じる場所があるのであれば、今回のように指摘をいただければと思うし、こちらの方もそういうことを言われないように、誤解のないように、これからまたしっかりと残り1年やっていきたいと思う。誤解を招くような発言等があったのなら、お許しをいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

**【高野副会長】**

澁市委員、西山会長の方から説明があったが、これで納得したか。

**【澁市委員】**

そのように確認していただければ、それで私としては結構かと思う。

他の委員は意見はないか。

**【高野副会長】**

他の委員は、この件に関して何かご意見はあるか。

**【宮崎委員】**

こういう形で出されるのは残念である。それだけ。だが、二人の考えは了解した。

**【高野副会長】**

では次にもう1点、事務局への改善要求ということで、事務局は十分に会長を補佐できていないということ、また協議会を運営するために、会長はじめ協議会委員を適正に支援すること、ということで、要請があったが、この件について事務局はいかが

か。

【佐藤センター長】

事務局もこの間、委員の皆さんの支援はしてきたつもりだが、それが不適切だということであれば申し訳ない。先ほど澁市委員が申された2点については、その都度謝罪してきた経緯もあり、今後についても支援をしていきたいと思っているので、その辺は理解をいただきたいと思う。

【高野副会長】

今の答弁について、澁市委員いかがか。

【澁市委員】

ありがとうございます。

【高野副会長】

委員の皆さんも今の件について、何か意見はあるか。適正にこれからも支援していくとのことである。これでよいかについて諮り、委員の了承を得る。

では今の動議の件について、澁市委員の方から納得いただいたということで、動議についてはこれで終わりたいと思う。議長を会長に戻させていただく。

【西山会長】

では私の方で議事進行を進めさせていただく。

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【西山会長】

「議題等の確認」について、質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項「雁木の保存を考えたまちづくりについて」—

【西山会長】

次第3報告(1)「自主的審議事項 雁木の保存を考えたまちづくりについて」に入る。

前回の会議では、市担当課から意見書に対する回答並びに説明を受けたが、当該自

主的審議事項の継続審議について、委員から、回答について分かりづらい、質問したことに十分に返答してもらえていないのではないかという意見があったことから、全会一致により、継続して審議することが決定した。

継続審議に伴い、今後議論を進めるにあたり、委員から、質問したことについて、まだ全部答えてもらってない、また答えた部分についても、分かりづらいという部分が多いのではないかというような意見をいただいた。また、市から再度説明をもらう必要があるのではないかというような意見も出された。正副会長の事前協議において、市から、回答並びに委員からの質問について、特にここの部分の説明が無かったということを説明してもらおうと、いろいろと皆さんの意見等を拾って、それを確実に返答してもらおうということで投げようとしたが、落ちているところがあるといけけないので、もう一度皆さんの方にきちんと前回の回答について、ここのところが分からなかったり、ここのところをもう一度きちんと説明してもらいたいということ、再度確認をするためのアンケートを事前に委員から取らせていただいた。

今日はその意見を皆さんに確認していただき、次回この雁木について分からない部分、なかなか私たちの思いが伝わらなかった部分について、担当課からまた説明をしてもらうように、お願いしようと考えている。

本日皆さんから提出いただいた質問の内容を、当日配布資料No.1にまとめた。これを実際に市へ質問する内容として、皆さんに了承いただいて提出したいと思うが、いかがか。

#### 【小川委員】

質問表の中に脱字が一つある。私の意見の4番目なのだが、「指定街区の代表者は、新しい土地所有者や借地人、」となっているが、「借地人」のあとに、「に」を入れてほしい。

#### 【西山会長】

小川委員の4番の意見の1行目の「新しい土地所有者や借地人、」の「借地人」のあとに、「に」を追加し、「借地人に、地域指定」ということでよいか。

#### 【宮崎委員】

私の方から、事務局宛てにファックスで送った内容の文章が欠落しているので、入れていただきたい。「意見書に記された全項目ごとにやるのかやらないのかを簡潔に

答えてほしい。」の前に、なぜこういうことを言ったのかということを書いてもらいたい。私はこのように書いた。高田区地域協議会だよりが、市民の皆さんに配られた。それに対して、私に対する質問という形で、「この1項目ずつ、どうやって答えたのか」というように言われた。地域協議会だよりに書かれた項目ごとにとというのが分かるような文言をここに入れてほしい。

**【杉本委員】**

趣旨は分かった。

**【佐藤センター長】**

地域協議会だよりと、意見書の項目が全て一緒だったので、事務局でその部分を省略し、このように書いてしまった。申し訳ない。

**【宮崎委員】**

高田区地域協議会だよりというのをに入れていただきたい。これに答えてほしいというのが私の望みである。

**【西山会長】**

今宮崎委員から出された意見が、高田区地域協議会だよりに書いてある項目についてきちんと答えてもらいたいというのをに入れて、その下に、「意見書に記された全項目毎にやるのかやらないのかを簡潔に答えてほしい。」ということでしょうか。

**【宮崎委員】**

はい、よいです。

**【西山会長】**

今ほど小川委員と宮崎委員から修正についての指摘をいただいた。こちらの方で誤って落としてしまい、申し訳ない。

それでは今回、分からなかった部分や市に対してさらに詳しく説明してほしいという部分があったら、提出をお願いしたいということで、小川委員が4件、高野副会長、宮崎委員からそれぞれ1件ずつ出された。この質問内容について、委員どおしで、中身が分からないから聞いてみたいとか、どういう意味なのか聞いてみたいとか、疑問や質問がある方はいるか。当日配布だったので、読んでいただきたい。この意見について何か質問がある方はいるか。

**【杉本委員】**

私はない。

**【西山会長】**

それでは今回出された小川委員と高野副会長と宮崎委員の質問を市に提出し、これについて質問をするということについて諮り、委員の了承を得る。

事務局、次回開催の協議会で回答は大丈夫か。

**【佐藤センター長】**

申し訳ないが、次回、回答できるとは今言えない。

**【西山会長】**

できるだけ早く、できたら次回お願いする。またその日程調整については事務局に早急に返事がもらえるようお願いする。

当日は市の担当者も来るので、質問等もできると思うがこれを基本に先方に伝えようと思うので、よろしくお願いしたい。

**【松矢委員】**

私は前回欠席したので、当日の説明時の雰囲気は分からないが、質問の次元が少し違う。小川委員と高野副会長と宮崎委員の次元が。一番の問題は、やはり高野副会長と宮崎委員の言っているのが問題だと思う。高野副会長の「要するに残していくのか、いかないのか」「保存宣言をする気があるのか、ないのか」、それから宮崎委員の「やるのか、やらないのか」これが一番問題だと思う。小川委員のは細部の点についての話だから。だからやはり冒頭には高野副会長と宮崎委員両委員の、これが一番問題だと思う。要するに市がやる気があるのか、ないのかというのが一番問題だと思う。残していく気があるのかないのか、私も回答書を読んで、はっきり言って市の回答はゼロ回答だと思った。市では恐らく100点満点で回答したと思っているだろう。だが私はゼロ回答だと思う。そういう意味で、これはどのようにして、ただこのまま出すのか、それとも少し編集して出すのか、その辺はあると思う。そういうことで、少し気が付いたものだから。

**【西山会長】**

松矢委員の今の意見について、皆さんどうか。

**【杉本委員】**

そのとおり。



【澁市委員】

私もそう思う。やはり高野副会長と宮崎委員の意見というのは、要するに根本的な考え方について問うている。小川委員の意見は少し技術的な、もとい準技術的というのではないが、そういうことを聞いていて、私もぱっと読んで小川委員の質問の意味が分からなかったが、分かろうとしても無理だから質問しなかった。高野副会長と宮崎委員の意見は非常に根本を突いた重要な質問だと思う。

【小川委員】

説明する。澁市委員、市の回答の中に、雁木の補助金制度を作って、市がこのようにしているという回答があった。その補助金自体が、今機能していないのではないか。それで私はこういう質問をぶつけてみた。

【澁市委員】

ではそのように直接聞いてみたらよいのではないか。

【小川委員】

直接聞いてもよいが。

【澁市委員】

例えば、過去5年間の補助金の当初予算額と、それに対する消化額はどうなっているのかとか、そういうことを質問した方がよい。

【小川委員】

それは私は知っているので。

【澁市委員】

満額出ているのか。

【小川委員】

それはデータとして皆さんに提示すればよいわけで、市の回答は補助金制度があるから皆さんきちんとやっているという回答だった。それだったらこの点はどうなのか、こういう点があればもう少し雁木を残せるのではないかという意味で質問している。

【澁市委員】

分かった。

【小川委員】

つまりこの制度が機能していれば、やはり町内の代表者が、街区の代表者が、例えばコンビニエンスストアができる時も「こういう制度があるが、同意していただけますか」と問い合わせれば、向こうもそれなりに考えているわけである。そういうのが機能していないと次から次へと無くなっていくという状況になってしまう。そこをもう一度市に投げかけて、そこをしっかりと押さえていただきたいという意味で、この質問を書いてみた。

**【澁市委員】**

一番最初に「現在のその制度自体が、そういう制度が設立された意図どおりに機能しているかと考えるか」と聞いたらよいのでは。

**【小川委員】**

でも「機能していると思うか」、「はい、している」で終わってしまう。具体的にこういう点はどうかと聞くことによって、その回答を引き出せると思う。

**【澁市委員】**

分かった。あまり詳しいことは分からない。

**【小川委員】**

後でゆっくり説明する。

**【西山会長】**

他にいかがか。この件も含めて松矢委員の意見もあれして、こちらの方で回答してもらいたいということで、きちんと願います。

**【杉本委員】**

質問状を出すのはよいが、誰がどのような回答をするのかというのがあると思う。先月の回答書というのが、文化振興課で作っただけみたいな感じで、他の部署の人は来てはいたが、一言もしゃべらなかった。そういう状況である。やはり関わりのある、少なくとも先月来た部署の人たちが合議を行って、きちんと答えるというような、その念押しが必要だと思う。そうしないとまた同じことにしかならない。文化振興課だったら、あの域から絶対出ない。それ以上の権限がないわけだから。町の作りをこう変えるなんていうのは、文化振興課には権限がない。あれは都市計画だとか、そういう部署にしかできない仕事なわけだから。そういうところに関わっているのに、あの人たちは何も言わないで黙って「私は来たが関係ない」みたいな、お客さんみたい

な顔をしているのではうまくないので、「本当はあなたたちが主役なのだよ、文化振興課の話ではないのだよ」ということを分かるような形で要求した方がよいのではないかと思う。そうしないと、先日出した回答書のとおりですということしか出て来ない。だからこの3人の質問状の中にはそんなことは書いてないが、この質問に回答するにあたっては、各部門に横断的にきちんと議論して、そして市としてどうするのかと。課としてどうするのかではなく、市としてどうするのかと。そうすると高野副会長の質問も生きてくる。市としてやる気があるのかどうか。そういう組み立てにしてもらった方がよいのではないかと思う。

**【高野副会長】**

私は、市の雁木保存宣言という、宣言ということになれば、市長が関わるわけで、文化振興課はそんなことができるわけではないので。私は市長がどうなのかということを知りたいというのが、一番の目的で質問を出した。

**【杉本委員】**

あと先月の会議の時に私は全部話をしてしまったので、今回は出さなかったが、現状を市はどう見ているのかということだと思う。1割以上、2割近く雁木が無くなってきている。それをよしとするのかどうか。この間の話だと「それくらい減っても、どうってことない」という感じでしか受け取れなかったが、本当にそれでよいのかということだと思う。文書で回答していないのに勝手なことを言って申し訳ない。

**【西山会長】**

今ほどの件についても、口頭で付け加え、市に伝えるということについて諮り、委員の了承を得る。

この件は、まとめさせてもらい、高田区地域協議会の質問として市に話し、回答をもらうようにする。

—自主的審議事項「買い物弱者の発生・増加と中心市街地の衰退について」—

**【西山会長】**

次第3議題(2)「自主的審議事項 買い物弱者の発生・増加と中心市街地の衰退について」に入る。

前回の会議では、「買い物弱者の発生・増加と中心市街地の衰退について」というタイトルで自主的審議を進めることとし、最初に「買い物弱者」のテーマを行い、その後「中心市街地」のテーマを議論することに決定した。

本日は「買い物弱者」に係る市担当課からの説明をもらうということで予定していたが、それについて事務局から説明があるということなので、まず事務局の説明を聞いていただく。

**【佐藤センター長】**

今ほど会長からも話があったが、前回の会議では、次回の会議で市担当課から、「買い物弱者」についての説明を受けることとしていた。この間事務局としても、市で担当課と思われる部署を探したが、説明に来てもらえるほどの担当課を絞り込むことができなかった。申し訳ない。そこで本日はその絞り込みの関係もあり、まず高田区でどのようなことで困っている人が「買い物弱者」なのか、高田区地域協議会が考える「買い物弱者」とは、について協議していただき、まずはそこを決めてもらいたいと思う。協議の参考として資料No.1とNo.2について配った。中身については係長が説明する。

**【佐藤係長】**

資料No.1～2に基づき説明。

**【西山会長】**

前回の議論、委員の皆さんに協議していただいたことを踏まえ、本来なら今回ぜひ説明に来てもらいたいということで、こちらの方でも該当するような課にお願いしたいということで、事務局を通じて話をしたが、なかなか市の方でも、私たちの協議会でいう「買い物弱者」というのが、どういう点を基に「買い物弱者」というように認定して、話を聞きたいとか、資料をいただきたいというのが分からないということで、そういう意味での返事もらった。そのところをもう一度皆さんで話し合い、それに合わせて返答したいということで答えをもらっている。今事務局からも説明があったが、今これから高田区地域協議会が、議論をしていくところの「買い物弱者」というものがどういうところかというのを、少し整理をさせてもらえればと思う。今の事務局の説明も含めて、様々な意見があると思うが、意見をいただきたいと思う。本日はそういう意味合いも含めて、本来なら市の担当者からの説明を聞いてもらえ

ればよかったが、1回お休みし、そちらの議論をさせてもらえればと考えている。大変申し訳ないが、よろしくお願ひしたい。事務局の今の説明等含めてでも結構なので、皆さんのご意見をいただきたい。いかがか。

**【高野副会長】**

事務局に聞きたいが、コンビニのマークがいっぱいあるが、コンビニでは鮮魚とか野菜とか、そういう商品は取り扱っていない。それから500メートル以内でも、足の悪い方はとても大通りは渡れないということもあると思う。その辺はどうなのかというところと、コンビニはできたり消えたりが激しいが、そういうのもいろいろ加味しなければならぬのかなと思う。

**【宮崎委員】**

生鮮3品。青果、鮮魚、精肉、これを生鮮3品というそうだが、それを買える店が歩いて3分以内に無いところに住んでいる者、これが「買い物弱者」というのが私の認識。本当に歩くという個人差があるので、私は1日かけて3か所、500メートルを歩いた。それで今ほどの3分という言い方を確認した。私は生鮮3品を買える店が歩いて3分以内に無いのが、買い物弱者になると捉えたらどうかというのが、私の考え方である。

**【小川委員】**

私は「買い物弱者」については、資料に書かれた参考の定義があるが、そのとおりでと思う。それから事務局が作ってくれたこの地図に、東本町にあるスーパーの場所が違っている。青い丸のところ、もう一本左へ、西へ来る。

**【佐藤係長】**

場所が違っていたか。申し訳ない。

**【北川委員】**

一本西。

**【小川委員】**

今宮崎委員が言われた3分というのは、駅から10分とか駅から5分というのは、1分80メートルとして、不動産屋は計算する。3分というのは240メートル。そうするとだいたいこの円の半分になる。今まで市の方針としては、要は郊外店を認可してきている歴史があるわけなので、そういう方針のもとに中心市街地に生鮮食料

品店がどんどん淘汰されて無くなっていくというのは、もう織り込み済みではないか、どちらかと言えば。私たちの町内にスーパーがあるが、今回プレミアム商品券という、一つの目的は今回の参加店がどこにあるかということを知らしめるのと同時に、そのスーパーでできれば皆さん買い物をしてもらい、スーパーが撤退しないように、そういう目的も一つ据えて行った。当初市は9千万円の資本金のスーパーは該当しないという方針だった。だから市の方も集まった席で、「それだったら、もし、このスーパーが無くなった時に、何か対策をお考えか」というように尋ねたら、誰も返事ができなかった。対策はない。そこで、このスーパーもプレミアム商品券に入れてもよいということになった。

【西山会長】

幸町店だけなのか。

【小川委員】

幸町店だけである。そういうことも踏まえて一つの流れがあるのではないかと思う。

【澁市委員】

まず「買い物弱者」は、我々は主として食料品を対象に考えていた。私の頭にあるのはここ3年くらいで西城町のスーパーが無くなった。そして本町1丁目のスーパー、このスーパーの発祥の地が無くなった。そして幸町のスーパーも危ない。だいたいそこら辺を利用していた高齢者の方というのは、そこで買っていたのは食料品だけではない。例えばティッシュとかトイレットペーパーとか、石鹸とか、日用雑貨も買っていたと思う。それがスーパーが無くなってしまうと、スーパーと同じような価格で買えるところが無くなってしまったわけである。コンビニは確かにある。例えば本町通りをまっすぐ行けば、駅前通りにコンビニがあるが、このコンビニが売っているものは、食料品は若干あるが、品数も限られるし、価格も若干高め。そうすると、やはり年金生活の高齢者にとっては非常に近づきがたい、あるいは品数を減らさなければいけないということで難しくなってくる。だからここでは昔あったスーパーで買っていたような品物を対象に考えた方がよいのではないかと思う。もう一つは500メートル。成人男子女子が通勤の場合、だいたい普通の人で分速80メートルと言われている。それを不動産に使うのを国土交通省あたりが許可しているが、お年

寄りには1分間に80メートルは無理である。せいぜい60メートルくらい、もっと遅いかも知れない。乳母車を押しながら歩く人というのは、おそらく50メートルくらいしか歩けないと思う。さらに時間的にもそんなに長くは行けないと思う。そして1週間に2、3回なのだろう。そういうことも考えた方がよいと思う。あと「買い物弱者」の対策というのはいろいろあると思うが、配達してもらえばよいという意見もあるが、高齢者は1日に一度くらい外に出ないと、閉じこもってしまうといろいろな弊害というか、障害が出てくると思うので、医者や介護施設などでも、1日に1回は出た方がよいのではという助言をしていると聞いているので、そこら辺も我々は考えるべきだと思う。だからかなり本町1丁目から7丁目、もう少し広げてもよいが、あるいは仲町、大町も。年寄りだけではなく、若い人でも昔あったスーパーで買っていた人が今は別店舗まで行かないといけないう状態になっていると思う。それを少し考えなければいけないと思う。

#### 【浦壁委員】

今結局この「買い物弱者」というのが問題になっているのは、この定義がどうのこうのではないと思う。要するに生活に、生活そのものの実態に即していない、そういうような環境。それが結局しいてどうなるかということ、まちづくりということが崩壊して、市街地の衰退化に繋がっている。私たちはやはり地域協議会だから、地域が元気で、高齢者も皆そうであるには、「買い物難民」の定義をしている場合ではない。私は本城町に住んでいるのでスーパーもあり、行こうと思えば行けるが、一般の人を見たら、ほとんどこの500メートル以内で買い物ができる状態にある人は少ない。生活実態は、こんな定義になんて当てはめているわけにはいかないと思う。私はこの協議会で何を協議すべきかということは、結局「買い物難民」で不便にはなるが、まち全体として、衰退している、これを何とか合わせてまちづくりという観点からも、「買い物難民」の定義ではなくて、そういうようなところから捉えていくような考え方をして、会を進めていかないと、何か「買い物難民」の定義で終わっているような感じがして、私は方向がおかしいと思う。

#### 【杉本委員】

先ほどスーパーの位置が違っているという話があったが、数年前まで私の町内に元魚屋が惣菜や何かをやったりして、スーパーみたいなことをしていたが、そこも後

継ぎがないということで、店じまいしてしまった。それでこの位置から正規のスーパーの位置にずらしても、うちの町内は大部分入るのだが、実際にお年寄りの人たちがどうしているかという、元魚屋があった時には、皆そこに行っていた。あそこの店は宅配までしてくれたし、惣菜を夕食時に届けてくれていたのだが、そういう店が無くなってしまったら、大変困っている。おばあちゃんが押し車を押して行くのだが、配られた包含図でいうと、ドラッグストアがうちの町内からは一番近いのだが、途中で1回2回休む。あそこに行くだけで、500メートルなんて全然ない。稲田橋のたもとから大通りの信金のところに出るので700メートルだから。700メートル、先ほどのスーパーもその中に入る。そのスーパーまで行くとなると、3回も4回も休んで行く、買い物に行くのに。だからそういう状況をどうするのかということだと思う。我々議論しようとしたのは、確かそんなようなことを改善するにはどうしたらよいかということで、議論しようとしたのではないかと思う。

もう一つは、これは宮崎委員が専門であるが、例えば先ほど出た話だが、本町通りを見て、1丁目から7丁目までの間に、八百屋、魚屋、肉屋、何とか屋という、食料品を売っていて、後ろに「屋」が付くお店がいくつあるか。仲町を含めたとしても。仲町、本町、大町この3本の通り、南から北まで全部見ても、本当に身近なところで何とか屋というところで買い物ができるか。そういうお店が軒並みなくなっている。そういう状況をどうするのかということ議論しようというのはそもそもの発端だったと思う。我々はたまたまそういうところに住んでいる人たちを、今はやりの言葉で「買い物難民」と言ったけれども、中身はそういうことだと思う。実態に即した議論をすべきであって、浦壁委員のとおり、言葉の定義の問題ではなく、実態に即した、こういう人たちをどうしてくれるのだという、その議論が大事だと思う。行政の人もそういう立場でもって、産業振興の部署ばかりではなく、それこそ文化振興課が手を上げて出てきてもよいと思うが、これは冗談だが。積極的に行政も「私のところはこうする」と、「まちづくりで、都市計画ではこのように考えて、店を残るようにしようとしている」とか、市から提案を持ってきてもらえるのであれば素晴らしいことだと思う。

#### 【小川委員】

商店をやっている一人として、それぞれに事情があり、肉屋、八百屋、魚屋、皆そ



れぞれ商売が継続できれば、次の息子に譲って続けていきたいと思うのは、やまやま  
だと思う。それがだんだんと無くなっていくというのは、それなりの事情があるわけ  
である。今、市でもタクシー券というのを出して、一人住まいの方に便宜を図るとか、  
そういう施策をしているが、やはりここは本町通りに何々屋が無くなったからどう  
してくれるのかという議論よりも、今ここに資料があるが、まちの再生ということだ  
と思う。どういう方向に町を再生していくのか、浦壁委員のとおり、要はコンパクト  
シティを目指すのか、そのためにどういうふうにしていくのか、そうすれば空き家にな  
っているところに、また若い人がIターンしてくるとか、店を開くとか、そういう  
流れが生み出せるのではないかと思うので。やはりこの高田区の現状を踏まえた上  
で、この町をどのように再生していったらよいのかという議論をした方がよいので  
はないかと思う。

#### 【飯塚委員】

この定義のように、どのようなことで困っている人を「買い物弱者」というかと書  
いてあるが、本当に困っている方はどういう人なのか、何に困っているのか、それが  
全然はっきり分からないわけ。だから別に自分が買い物をしたくて困っているのか、  
でも買い物は自分で行きたいけど、足が痛くて行けないから、違う人に頼んだり、配  
達してもらったり、それで困っていないという方もたくさんいる。だから私はこのこ  
とで、町をよくするのか、本当に困っている人を助けるのか、その辺がよく分からな  
い。困っている人はそんなにいないのではないかと思う。私が聞いたところだと、誰  
かに頼んだり、ボランティアの人に頼んだり、配達してもらったりという方が多いの  
で。

#### 【西山会長】

実は事前に私も聞いた時に、例えば、市のヘルパーだとか、うちもそうだが、食材  
を配達してくれたり、できた弁当を届けてくれたりというのがある。それが「買い物  
弱者」とか、食べ物に不自由している人に当たらないのではないかと言われたことも  
ある。飯塚委員と同じことを言われて、そうすると本当に買い物、食べ物に困ってい  
る人はいるのかと逆に聞かれたこともあり、そこら辺の意見もあったので、皆さんに  
聞きたいと思い、こうやって意見を聞かせてもらっている。

#### 【浦壁委員】

高齢化になって、スーパーがなくなったりしている。それは行政も重々承知していると思う。ただそれを小川委員のとおり、空き家があって、それを活用して、何か活性化、歩いて行ける所に生活用品を置く店とか何とかというような、市がだいたいどのような考えでいるのか、私たちはまず聞いてみないと分からない。ただ困っているからと言っても。この間「買い物難民」で困っている人なら、買い物代行しますというチラシが入ってきたが、そういうものに対して、行政は関わってはいないと思う。補助金を出すとか、何かチケットの優待券を出すとか、そういうのを市も少し考えているのかどうか、全然分からない。そうすると皆さんは買い物代行してもらえば、自分でその手数料を払わなければいけない。年金の乏しい中から。そんなことをしたら、ますます経済的に高齢者は今大変な時だから、少し難しいと思う。だから「買い物難民」を救うとかではなく、町全体として空き家を使って、そして高齢者もできるだけ出てきたりして、まちづくりとか、そういうようなものに繋げていける、そういうような考え方をまず前面に出さないと、どれが焦点なのか。市としてはこういうようなことに対して、中心市街地が衰退していく、これに対して何か手立てを考えているのかということ、そしてその結果として、「買い物難民」が出ていると、そういうようなことについて、どの程度掌握して、それに対するいろんな策を考えているのかどうかということが、全然私たち委員に伝わってきていないので、まずそれを自主的審議で詰めて、そして市の方に、意見書や、意見を聞いたりする機会を設けることが大事だと思う。

#### 【北川委員】

私が住んでいる近くにこういう方がいる。高齢者の方で子どもと二人で住んでいて、南本町なのだが。南本町から一番よく行っているのは、南本町にあるスーパーのようである。歩いて行って、あまり足もよくないので、だいたい10分以上はかかっていると思う。両手にレジ袋をいつも重そうに持って、買い物しているので、声をかけて、手伝ってあげたいという気持ちはあるが、子どもがいるので、その必要もないのかなと思っている。その子どもが、なかなか外出しない。もちろん町内の活動にも出て来ないし、なかなか顔を見る機会はない。そういう方もいるといったところで、こういう方は「買い物弱者」ということにはならないかもしれないが、予備軍ではないが、私としてはその方は困っているのではないかと考えていて、もっと近く

に、南本町3丁目なら南本町3丁目の雁木通りなどに、小さいスペースがたくさんあるので、普段食べるようなもの、使うようなもの、先ほどの澁市委員のとおりトイレットペーパーや歯磨き粉だとか、そういうものの店があればよいのかなと思う。

#### 【小竹委員】

「買い物弱者」の定義は何かということから、話が始まったと思うが、距離がどうか、歩いて何分とか、一つの目安としては必要だと思うが、実際その人が買い物に困っていると言え、その人は「買い物弱者」にしてよいと思う。たとえ隣にスーパーがあって、あなたの家の隣にスーパーがあるとと言われても、足が悪くてここから出られないと言ったら、もうその人は「買い物弱者」だと思う。まずそれを把握するのが第一前提だと思う。それを解決するために、スーパーをたくさん作ればよいのかと言えば、決してそうではないし、ではコンビニでもっといろいろなものを売ればよいかといったら、それも違うと思う。これは全く自分の意見で、自分の理想的なまちづくりの考え方だが、やはり一つの町というのは、当然高齢者や障害のある方もいて、自分たちのような若い世代がいて、いろんな人がいる。自分は実際そうだが、昼間仕事をしていると、普段昼間にお年寄りの方が何に困っているかは見えない。最先端で働いている人たちはその辺があまり見えないと思う。でもそういう課題が自分の地域にあるのだと知れば、やはり人間みんな心があるので、地域の課題は地域で支えて行こうという考えが、もっと浸透していけばこういった「買い物難民」というものも解決できるのかなと思う。少し話がそれるが、自分も障害に携わる仕事をしているが、障害のある方たちはなかなか地域での生活というのが難しい部分がある。ただそれは一般の方たちがもっと障害についての知識を持って、お互いに支え合って助けてあげる、ノーマライゼーションの考え方というのが浸透すればどんどん解決できると思うので、こういった買い物に困っているという人たちを自然に助けてあげられるようなまちづくりができれば理想的だと思う。

#### 【小林委員】

皆さんの話を聞いて納得するが、我々よりも小売店の方が、先だと思う。私が本町に買い物に行ったとき、その店の人が何と言ったと思うか。「お客さん、収入印紙要らないでしょう」と。5万円くらいの孫の五月人形を買った時に。私は頭にきたから言った。「収入印紙を張って下さい」と。まず小売店から考え方を直さなければいけ

ない。だから我々お客さんが逃げて行ってしまう。いつも買っている本屋にカードがある。あれだって買った金額と押した金額のハンコの数が違う時がある。びっくりしてしまう。本屋さんは配達する時、本を投げつけていく。これでは駄目だと、お客さんが来るわけがない。お客さんがあつての店ではないか。話を聞くと、店があつてのお客さん。逆だと思う。だからまず店を直す。従業員から、店主から考え方を直さなければ。従業員が我々に向かって、独断で収入印紙要らないでしょうとは言わない。店主が言っているから言うのだと思う。きちんと店を直さなければ駄目。人の大事な本をぼんと投げつけて行く店ではもう買わない。人形も買わない。本は車に乗って買いに行く。まず店から直さなければ、お客さんは逃げる。だから弱者なんて後でよい。店から直さないと絶対に駄目である。

#### 【佐藤委員】

私の住んでいるところは、以前近くにスーパーがあつたところで、そこがあつた時は非常に便利だったが、無くなってしまった。本町1丁目、大町の近くの人たちの話を聞くと、以前はそこがあつたからよかつた。個人個人の差があるが、近くにあつたから便利だったという部分と、いろいろな話の中では、弱者に個人差が出てきているのかなという気がしている。うちのところだけでは、そういったところが無くなったのだと、全体的にそういうのが増えてきているのだと。皆さん見ていると、うちの町内とか、南本町3丁目も寺町1丁目も本町2丁目もそうだが、どうしてもやはりスーパーがあつた、無くなったで非常に大きく変わっていったのかなと。それでこういった買い物をする、特に高齢者の方だが、そういった意見が上がってきているのも、現状だと思う。現状を踏まえた中でのまちづくり、そういうのをしていってほしいというのは思う。

#### 【高橋委員】

これまでの皆さんのいろんな話を聞かせてもらい、いろんなことを考えた。私は豆腐屋をやっているが、先ほど杉本委員のとおり街中に何々屋という店がほとんど無くなってきていて、なんとなく活力がないと、それも確かに言えること。昔はそうだった。随分前に、明治の頃の今でいう住宅地図を見る機会があつたが、非常に店舗が多く、軒並み店のような感じで、用事が町の中で全て足りた時代だった。町の中でお金が回って、それなりに活力もあつた。それからどんどん世の中の有りようが変わっ

て来て、先ほどだれかが言ったが、郊外に大きな店舗がどんどん認可されるようになって、当然街中は衰退する。車で通勤するようになって、昔は何々屋を何軒もはしごして、その日必要なものを買っていたが、大きな店舗なら、一か所で済む。だから世の中の有りようが大きく変わったということ。それと生活様式が変わったということ。今「買い物難民」になっている方が多くというのは、街中に何々屋がたくさんあった時代に世の中の中心となって活躍していた方々、そういった方々の感覚と、今の世の中の有りようが大きくずれたということ。そういったことに一つ問題がある。この資料を出してもらって見て、逆にこんなに店舗の密度が高いのだという印象を持った。郊外に住んでいる方に比べたら、これは実際の話恵まれている。そのように思う。少しいろいろな用事があるって、例えば中ノ俣とか板倉区の奥とか、そういったところに行ったりすることがあるが、店舗なんか本当にないか、少ないか。逆に街中にこれだけ店舗がある。非常に恵まれた状況だなと感じた。それでただ何となくやはり、浦壁委員のとおり、なんとなく町に活力がない。「買い物難民」というのは一つの切り口とか一つの視点であって、結局先ほどの話を聞いて、我々が話し合っていくべきことは、「買い物弱者」というのを一つの切り口にして、何とかまちの衰退というのは目に見えることで、それを何とか食い止めたい、そのための方向性、具体的な方策を何とか見出して、市に提言したい、市からも答えを引き出したい、恐らくそのようなことなのではないかと思う。それで活性化という言葉をよく使うが、非常にこれは便利な言葉だが、逆にものすごく曖昧な言葉で、活性化しよう活性化しよう、何をどうするのか、具体的に何がどうなったらゴール地点なのか、理想はどうなのか、恐らくそういったところまで細かく、方向付けしていかないと、議論自体も曖昧に終わるし、提言自体も曖昧に終わる。活性化のゴール地点というか、一つの理想はできるだけ具体的に我々はどこをどうしていきたいのかというところまで、具体的に詰めていかないと、いけないのではないかと思う。まとめると、「買い物弱者」というのは非常に大事なことだと思うし、実際困っている方もいるのだが、そこはただ一つの切り口であって、やはり我々が目指すべきところは町の活力の無さをどうするのか、どうしていきたいのか、ということを経済的には話合いを持っていくべきだと思う。

【松矢委員】

今ずっと話を聞いていて、非常に難しい問題だが、私自身のことをまず話をする。今のところ私は健脚なので、本町2丁目に住んでいるが、先ほど言った本町1丁目のスーパーもなくなったし、郵便局の隣のスーパーもなくなったので、買い物に行くとすると、幸町のスーパー、南本町のスーパー、それから浄興寺裏にできたスーパー、だいたいここが片道歩いて2キロである。私も体を鍛えるという意味で、お陰様で歩けるもので、だいたい歩いて行っている。時々澁市委員と会ったりもするが。今のうちはよい。しかしこれから歩けなくなったらどうするのかというのがある。何年先かは分からないが、少し困るなと思う。二・七の市がある、それから四・九市もある。あるおばさんと随分そこで買い物をして、親しくなった。やはりその人は行き返り、私の家の前を通過して、田舎の方へ行くが、だいたい市が終わると、私の家に来る。野菜がある、それからこういうものがあると。今日だって1時頃突然入ってきて、こういうものがあるけれど、と大体無くなる頃を見計らって持ってきてくれる。それから二・七の市で、この前は果物、「松矢さん、去年買っていただいたので、今年もどうか」と持ってくる。これはやはりそういう市の人と親しくなると、そういうこともやってくれる。だから、うまく人付き合いをやることも必要だと思う。やはり今「買い物難民」と言っているが、昔は確かに個人商店があって、私の周りにも肉屋もあれば魚屋もある、魚屋なんか朝見本を持ってくる。「これを刺身にするか、煮魚にするか、焼きますか」と注文を取りに来る。「こうして下さい」というと夕方に持ってくる。そのように便利だった。そして昔は大家族だった。おじいちゃんおばあちゃんはいたが、息子夫婦と孫もいて、そうするとおじいちゃんおばあちゃんが動けなくても息子夫婦や孫が買い物に行ってくれたわけ。やはり核家族になってしまったから。そういう意味で年を取ってくると買い物も大変である。だから生活実態も皆変わって来てしまった。やはりこれといった解決方法はないが、まず健康を維持すること、歩くことである。もう歩くことしかない。私も毎日1万歩を目指して歩いているが、やはり今のうちは歩けるからよいが、やはり健康第一。それで歩いて行く。みんな片道2キロである。南本町のスーパーも幸町のスーパーも、それから浄興寺裏のスーパーも片道2キロ、往復4キロである。歩いて買い物に行っている、だから健康第一。それに尽きる。

【山中委員】

いろいろ皆さんの意見を聞かせてもらったが、やはり昔のことを思えばあれだが、やはり時の流れ、時代の流れというのは早く進んでいる。今「買い物難民」というが、私たちの周りもそうだが、ふと気づくと子どもの声がしない。そして老人世帯になってくると、あちらで欠け、こちらで欠け、一人でいられなくなったから子どものところに行く、そうするとそこが空く。本当に目に見えて人の数が減っていく。それも時の流れといえそうなのだが、やはり先ほど話があったが核家族がここまで進めたのかと思う。だから若い人たちが、うちも今年嫁をもらったが、一緒に住んでもよいと言ってくれると、やはり嬉しい。でもそれが珍しいことになってしまった。今親と一緒に同居するということが。そこからしても、世の中そのように変わってしまった。若い人は郊外に住んで、年寄りも昔からの古い家に住んで、どうせ年寄りは死ぬのだから、家も直さなくていいや、みたいな感じで。そうすると衰退せざるを得ない。やはり根本的に考えていったら、そこに住む人。昔はそれこそたくさんいた。曾おじいちゃん、曾おばあちゃん、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、子どもに。そういう時はやはり活気がある。人口がなくて今買い物に行けない人たちに例えば毎日訪ねて行って、お手伝いをしてあげると言っても、それだって限界がある、何年できるか。「買い物難民」のおじいちゃんおばあちゃんがあと何年生きられるか、みたいに考えていった時に、そこが終わったらどうするのか、みたいになっていく。地域のコミュニティを作っている、お互いに助け合っていくというのはあると思うが、まず私は人口問題が大事なのかなと、皆さんのいろんな話を聞きながら思った。でもそれは私たちではどうすることもできないことなのかなと思う。どうやったら若い人たちが来てくれるのか。人がいなければ店もなくなる。店をやる人も、採算が合わなかったら経営していけない。いくらあの店があったらよい、この店がよいと言っても。じゃああなたが篤志家でしてくれるのかと言えばそんなわけではない。やはり商売をするからには収支が合わないと駄目だし、だからなかなか難しい、深い問題なのだと今悩んでいる。

#### 【山本委員】

この問題はピンとこない。やはり「買い物難民」、「買い物弱者」とはいったい何だろうというのがよく分からない。元々郊外に住んでいるためか、買い物に困るとはいったいなんだろうかと。もちろん実際に、個人的には少し足ができない、今日は駄目

なんだという人もいるが、本当それをどう解決するのか、あるいは、解決していきたくないかという、それはやはり地域だと思う。隣近所の付き合いを、もう少し広げて、班の付き合い、町内の付き合いというように、少し広げながら、その地域の考えてきたことなのだろうと。昔のことを考えると、私は牧村のずっと田舎に住んでいたから、半径5キロ以内に商店はない。そうすると「ちょっと町に出るわ」というと、みんなが頼む。鮭の切り身を買ってこいとか、昆布買ってきてくれとか、そういうのが当たり前で、「買い物難民」というか、それを解決してきた。これもやはり郊外の人については、なかなかこの問題を日常話し合わないし、話し合う機会もない。この問題が非常に大きな課題としてやっているのは、やはり中心市街地の方たちだろうと。そう考えると、なかなかその問題解決の捉え方が難しいと思う。最終的にはまちづくりと関係して、地域づくりなんだろうと。そしてそれぞれの地域づくりの中で、その地域、地域がどうするかと、民生委員も含めて、この問題をどうするかという話合いの場、あるいは皆さんの意思統一の場を作っていくしか、解決の道はないのだろうと考える。

#### 【吉田隆雄委員】

私は一番最後なので皆さんのそれぞれの意見を聞いてになるが。これと言ってよい意見はないが、この上越市の中心街にいる私たち地域協議会として提案させてもらうのは、市役所には、人口減少の問題もあるし、経済関係の課もあるし、まだそのほかいろいろな課があると思う。この今の「買い物難民」というのは、社会のほんの一つのテーマで、その一つのテーマでも浦壁委員のとおり、まちの中全部を考えていかなければ、このテーマは解決しない。こんな難しいものを私たちが今難民にはこうすればよいという話を出したところで、それは実行に移せるわけではない。むしろ、例えば12月の地域協議会はその一つのテーマではなくて、市のそういう関係する人たちを集めて私たちとフリートーカーを行ったらどうか。そういう会を一度持ったら。そうでないと協議会で一つテーマを決めても、これに適格するようなこれぞという答えはないので。私はむしろ市のそういう担当者をピックアップし、選んで、その人たちと、ではこのところはどうする、これはどうするのか、例えば跡取りがない、跡取りがないという問題については市はどう考えているのか、いや税金が。では税金については、税金の担当者はどのように考えているのか、例えば私が会社で新しい



仕事をする時に、「それをやってくれるのだったら、最初の2年間税金を考えてやるぞ」という市長もいた。それくらいに例えば、税金の問題にしたって、そういうゆとりというか、余裕があることだって、あるかもしれないのだから、やはり市の担当者とざっくばらんなトーキングを1回やってみたらどうかと私は提案する。

#### 【吉田副会長】

私も高橋委員と同じように店をやっている。私の町も昔ほとんど他に行かなくても、葬儀屋と結婚式場がないくらいで、布団屋、時計屋、スポーツ用品屋、八百屋、魚屋、みんなあって、間に合っていた。この長い間に経済の変貌で、次々と店が無くなり、つい最近スポーツ用品屋が無くなった。「吉田さんのところがあると便利がよいわ」という人には申し訳ないが、「私も元気なうちはやるが、うちもいずれは無くなる。300年近くやったが、うちもやめる」と言ったりしている。私が体験した話だが、親しくなったお客が具合悪くなって寝込んでいた。八百屋とかストアとかから宅配で持ってきてもらっても、お金がないと払えない。「悪いけど、あなた信金からお金をおろしてきてくれないか」と言われ、「カードは駄目だが、通帳でおろしてあげるよ。後日してあげるからね」と、そのようにしてあげたおばあちゃんもいる。それとタクシーで来る方がこの頃多い。コピー1枚でもタクシーで来る方がいる。そのほか、うちの店でタクシーを降りて、乳母車動かしながら、信金に寄って、その他のお店に寄ったりして、知り合いのうちに寄って帰るという方がいる。そういう方はまだ一人で何とかしようとしている。二・七の市とかに行かれる方もいる。だが重いものを持ってくるのはもう少しきついということで、自転車を引いてくる方もいたりして。あのおばあちゃんも昔は元気だったよなど、だけどだんだん弱ってきて、「あの人はどうしているか」と聞くと、「施設に入った」というのが、この頃聞こえる。消費人口が減ってくる、そうするとだんだん商売にならないので、子どもにはさせたくないから、店をたたむしかなくなる。そうすると、今度は飲食店もなくなる、スナックもやめる店が多くなって、この先がだんだん大変な町になっていくなど。私も年寄りをずっと見ていたもので。昔は気の利いた猫も犬もいなかったという状態にならないければよいと思う。

#### 【西山会長】

皆さんのいろんな考えを聞いた。出発点は「買い物弱者」はどんな人だろうという

話から始めたが、買い物に不便をしている人の話をしていると、お店とか商店街の話になったり、買い物が不便になったり、補助金制度になったり、人口問題になったり、何かを活性化しなければいけないとなったり、ものすごくいろんな見方によって、本当に買い物一つを基において考えただけでも、やはりこれだけ多くの皆さんの見方と、考え方で変わってくるのだなと思った。このままあれもこれもと話をしても、問題点全部を解決しなければいけないのは当然だが、先ほど話も出たが、地域協議会なので、高田区として、まず取り組んでいくものは、何かということを考えながら、問題の解決に向けて皆さんで議論していただくのがよいと考えている。皆さんそれぞれの意見を聞いて、今後、何を核として議論を進めていったらよいかという意見がある方がいれば聞かせていただきたい、いかがか。

#### 【浦壁委員】

やはり今の「買い物弱者」とか、それから空き家の問題とか、いろいろな問題が現実に出ているわけである。それらはあくまでも個別の問題であり、行政の方は簡単にまちづくりと言って、その大義名分のもとに、市民の活動に全部お任せしているように思ってしまう。具体的に行政としてどのようなビジョンを持ってこのように現実に起こっている「買い物難民」とか、空き家とか、そういう問題に対して、どのようなビジョンがあって、どのような方針を描いているのかというようなことを聞きたい。私は市議会とか、市長の施政方針演説か、そういうのをあまり聞いたことがないので、大変申し訳ないが、行政の側から、まちづくりの具体策について、どう考えているかを聞きたい。その結果として、結局「買い物難民」が出て、空き家が出ている。今日たまたま、昼に、本町2丁目にあるレストランに行った。空き家を活用したレストランだった。美味しいし、本当に素敵だった。お店も結構混んでいた。あのよう、空き家を使って、若い人たちがお店を開いて頑張っている。今は働き方改革で、終身雇用というのは何もない。若い人たちが自分で商売をしたいという方が随分いると思う。起業したいという若い人を呼び、空き家を活用してくれる人たちに行政で補助してあげるといったような市の具体策をお聞きしたい。

#### 【西山会長】

浦壁委員、具体策ということだったが、具体策を全部市に聞くわけにはいかないので、何を中心に聞いてみたいのか。

**【浦壁委員】**

まちづくりである。そこで個別の問題が出てくるので、市のまちづくりにおける実践的な具体策を聞いてみたい。

**【西山会長】**

まちづくりについて話をしたいということで、まちづくりについて、その中のどの部分に一番スポットを当てて話をしたいのか。

**【浦壁委員】**

それは皆さんで決めてもらいたい。皆さんもいろいろな考えを持っていると思う。この「買い物難民」が出る前に、まちづくりについて、いろいろと討議をした。空き家、高田公園、人口問題など、いろいろなテーマが意見として出た。そういう問題をここで集約するべきだと思う。皆さんに意見を出してもらって。それがまちづくりに繋がって、結局「買い物難民」とかに対する方策などが見えてくる。例えば空き家の問題も、行政として解決のために補助をするのか、どのような考えなのか、市の姿勢が全然見えてこない。

**【西山会長】**

自主的審議事項は、ある程度テーマを狭めていただく必要があり、行政全体の話聞くのは自主的審議事項ではない。高田区では今これが問題となっている、これを解決するためにどうしたらよいかということ話し合う必要がある。

**【高野副会長】**

話がだんだん大きくなって、まちづくりとか人口とか、これは高田区だけの問題なのかと。やはり市の方で、担当課が見当たらないというところが、まずどうなのかと私は非常に疑問に思う。では「買い物弱者」は市でどこの課が担当しているのか。それともたらいまわしでやっているのか、そのように見える気がする。私が提案したいのは、「買い物弱者」というが、例えばヘルパーや民生委員の皆さんが関わっているお年寄りとか、独り暮らしの高齢者とか、そういう方がどういう生活をしていて、何に困っているのかということに関係者から一度聞いてみたらどうかと思う。やはり問題を大きく捉えて、今困っているのは何なのかと。このまちづくりの5年10年とか、人口の問題をここで話をしたところでどうなのだと、解決できるのかということ、我々ではできないわけである。それをここでどうのこうのと言っても、ただ話を聞いて

ただで終わるような気がする。

**【西山会長】**

今の高野副会長からは、具体的に今後の全体のことを考えて、まず買い物もそうだが、困っている方に携わっている民生委員やケアマネージャーとか、そういう方からまず今の問題点を1回聞いてみたらどうかという意見だと思うが、皆さんいかがか。

**【浦壁委員】**

やはり「買い物難民」となると、山本委員や飯塚委員のとおり、感じていない人もいます。これは弱者救済というか、私たちの地域協議会の課題と結果として結びついてくるが、それを主たるテーマに市からいろいろと聞くのも大事なことだが、そこに的を絞ること自体、私たちのすべきことではないと思う。

**【西山会長】**

浦壁委員からは今の話で、買い物に苦労している人に絞るのではなくて、他のことでどうかという意見をいただいた。他の方はいかがか。

**【澁市委員】**

いろいろ皆さんの意見を聞くと、一応10年前に比べても、要はスーパーマーケットが三つなくなってしまった。中心市街地で。それで遠くに、車を運転できない高齢者が、実際に困って、買い物に行けないということは、半分以上の方が認識されているということ。それは町の衰退、活性化が無くなったということの一断面かもしれないが、一応現象としてみんな認識している。杉本委員のとおり、5年前までは何々屋というのがあって、いろんなものを売ってくれたし、配達もしてくれたが、それも無くなってしまった。そういう状態がますますひどくなっている。そしてその対応策として、買い物代行とかそういうサービスも出てきている。それを利用している方もいる。ただ買い物代行サービスだけに頼ると、その頼った人は外に出て行かなくなる。私が勉強した範囲内では、そういう方はますます痴呆が進むとか弱くなるという現実がある。そういう現実があるということは認識した方がよいと思う。それに対して、市はどのように認識しているのかというのは、一つの重要な質問になってくると思う。どこのセクションがやるかどうかは、市長にではないが、秘書課あたりに持って行って、「こういう問題を高田区地域協議会は認識しました、実際にこれこれのスーパーがなくなった」と。これは非常に面白い、興味ある地図を作っていたのだが、

それほどひどくないということかもしれないが、私が聞いた範囲では、昔スーパーがあって、本町1丁目のスーパーに行けば、だいたい日常生活に必要な食料、日用品、歯磨き、トイレットペーパーは手に入った。今はそうではない。食料品もないし、トイレットペーパーも遠くまで行かないと買えないと、これは少し困るというのが私の認識、全てではないが。車を運転できる人が身の周りには多いが。そこら辺をまず市にぶつけてみる。一方我々も皆さんが言うように、そういうことを高齢者に日頃から接している民生委員の方、あるいは在宅で介護を受けている訪問介護の方、そういう方に聞くのは可能だと思う。あるいは代行サービスというよりも、生協。生協は食料のデリバリーもやっているし、介護事業所では夕食のサービスもやっているところもあるから、そういう方から事情を聞いてみるというのも、我々の知識を高めるといえることでは有効かもしれない。ただ現実として高田区のお年寄りで、そういう方が実際にいるということは認識すべき。いずれ我々もその道に行くわけなので。

#### 【西山会長】

今ほど濫市委員からも、そういうことに携わっている方から意見を聞くのも、大変必要なことではないかという意見をいただいた。

#### 【杉本委員】

8月か9月にグループ討議をして、いろんな課題を出し合って、それをまとめた中から、当面はこういう問題でという話になったと思う。その時にもいろんな議論の中に出てきたと思うが、一つの問題から入って、入り口は一つだが、入ってみるとめちゃくちゃ広くて、みんな繋がっていて、どの問題から入ってもみんな同じ問題を議論しなくてはいけなくなるのではないかというようなことも話し合ったと思う。だから当面はこの問題から入るといえるのは、それはそれでよいと思うが、ここから入ったからといって、これだけというように狭めないでほしい。今日話ただけでも、いろんな話が出るわけで、それをまとめるのは大変だと思うが、最終的には諮問機関だから、市に提言を出さなければいけなくなると思うが、それはある程度まとまった時点で考えることにして、あまりそのところにこだわらないでやった方がよいという気がしている。行政の方に声をかけるのも、議論がそういうことだから、どの問題でもよいと思う。例えば少し話が出たが、福祉関係の部署に来てもらって話を聞くと、

そこでちが明かなかったら、ではこういう問題はどのようにするのかということで、他の部署に振るとか、という格好で動かしていけば、一つの部署ばかり苦勞することはないと思う。恐らくこのテーマを市として包括的にやっているところはない。本当は包括的にやってもらいたいが、そういうのはないという現状。だから個別に一つずつやって、変な話だが、こちらからけしかけて、包括的にやってほしいと、けしかけるくらいのことにも必要なのかと思う。

**【西山会長】**

高野副会長や澁市委員のとおり、民生委員や、福祉等に関わっている方から話を聞くのも一つの方法ではないかと思う。その話だけを聞いて判断するというわけではないが、まずはそのようなところから話を聞く会のようなものをする中で、買い物だけではなく、いろいろな部分で困っているという話が聞けるのではないかと思う。民生委員等の関係者から話を聞く機会を設営することについて諮り、委員の了承を得る。

**【山本委員】**

ただその場合、現状報告だけではなく、具体的にこのようにして解決している、あるいは解決の方策を練っているとかという、腹案を持っているような方からぜひ話を聞きたいと思う。同じ来ていただくにも。

**【西山会長】**

了解した。それを含めて、人選の方は正副会長に任せてもらい、まずは話を聞いて現状把握を進めればと思う。その方向で、次回以降、進めることについて諮り、委員の了承を得る。

—地域協議会 会長会議について—

**【西山会長】**

次第4報告(1)「地域協議会 会長会議について」に入る。

皆さんには事前に資料を送ってあると思う。簡単に説明すると、今回7月、8月と、委員の皆さん、それからセンターから、これに関していろいろな意見をいただき、地域活動支援事業について、再度見直しをする中で、どのように考えるかについて話合

いをし、多くの時間と労力をいただいて、高田区をはじめ28区の協議会から検証を実施してもらった。その結果については、資料のとおり、どのような区で、どのような意見が出たというのがまとめてある。まず最初に結果から言うと、次年度も地域活動支援事業は実施するということが、そして予算については今年度と同等の額で実施されるということが決定された。その他にいろいろな議論が出た中で、例えば、継続事業を行っている団体の補助率についてや、新規の事業提案がなかなか挙がって来ないとか、2次募集や3次募集をするところとしないところがあるとか、いろいろと細かい問題点が挙がっているが、今回市の方では、今まで統一したルールで指定されている以外に、新しい統一ルールを作ることはしない方針とのことである。それについてはいくつかの会長から、せっかくここまでみんなの意見を聞いて検証しているのに、何でそれができないのかということで、意見が出たが、一応市の方針としては地域活動支援事業の募集については、その地域ごとのいろいろな諸事情、それから採択のルールなどに関しては、各区にそれぞれ独自性を持たせて、その地域の実情にあった地域活動支援事業を実施してもらいたいために、市では例えば3次募集をやめてほしいとか、物品の購入は何パーセントまでという、大まかな検証の意見はここに載せてあるが、100パーセント市の案に従ってほしいというのは出さないという結果だった。よって大変申し訳ないが、次年度の地域活動支援事業の募集要項、採択のルール等については、今まで同様、高田区地域協議会でまた議論をし、募集要項、審査方法等を決定して、3月から事業方針の説明会等が始まるので、2月末までに決定し実施するということが進めてほしいというのが決定の内容である。

もう1点が、グループ討議をやったが、会長が、それぞれ三つのグループに分かれて、いろいろな地域協議会の問題点について話をしたので、会議録については後程、市のホームページ等にも出されると思うので、それを見ていただければと思う。

大きな点は一応、地域活動支援事業の検証をしたが、昨年と同様に実施をするということが、ここでの報告の柱であった。簡単ではあるが、会長会議の報告とする。何か質問があれば、答えられる範囲で答えるが。

#### 【澁市委員】

全市に関わる問題であるが、昔から言っているが、市長が市議会に予算を提出した時点で、募集を始めてもよいのではないか。つまり今は募集は新年度になって4月1

日からでないとも募集できない。実態は市長が市議会に予算案を提出するのが3月上旬。その時点で募集を始めれば、実際の事業の実施が1か月余分に、実施期間ができる。それは昔から言っているが、これは市がやろうと思えばいくらでもできる。それについて、確か私たちの意見の中にあっただが、市の考えはどうなのか。

**【西山会長】**

その辺も話が出て、基本的に4月1日から募集の受付を始めるということで、4月1日の時点で既に事業を実施しているも、提案書を出した日以降は全て事業が実施されていても、それが採択された場合には、予算の執行には問題ないということであった。やはり議会を通らないと適当でないという話で、とりあえず4月1日から事業提案は出しても構わないし、実施していても構わないということで、ただ採択されなければ補助されないということを理解した上で提出してほしい旨を、提案団体に説明してもらいたいという市からの回答だった。そして募集期間については、募集するのが4月1日から例えばゴールデンウィーク前になるのか後になるのかという設定も各区の実情で判断し、全部統一しないということであり、2次募集についても日にちの統一等は一切せず、各区の判断に任せるという説明だった。

**【杉本委員】**

今の件で、予約と言っては変だが、そのようなことはできないのか。例えば正式募集は4月1日からだが、事前に提出する書類は全部調整しておいて、4月1日付けで出せるといった、実質前倒しだが、形式上は4月1日というやり方もあると思うが。

**【西山会長】**

それは事務局から説明する。

**【佐藤センター長】**

そちらについては、4月前でも事前相談を受けている。今年もそうして4月1日付けで提出した団体もあった。

**【杉本委員】**

要するに事前の相談をきちんとしておけば、4月末まで締切日を延ばさなくても、4月10日くらいで締切ってもよいのではないかと思う。だから応募する団体には3月から相談を受けていると、4月1日には書類をきちんと出せるように、ここで準備してほしいという格好で周知したらどうか。



【西山会長】

それも先ほど言ったように、高田区地域協議会で、例えば、今年は4月15日で締切であると決めれば、それは高田区のルールとしてよいので、委員からその辺も話し合ってもらいたいと考えている。別にゴールデンウィークの前までだとか、ゴールデンウィークを過ぎた次の日とか、どこを最終日にしても関係団体は締切最終日に一気に駆け込みで持ってくるのは一緒だと思うので、締切日は高田区地域協議会で決めて構わない。

【杉本委員】

ではそのようなことを考えましょう。

【西山会長】

またこれからその話をしなければいけないので、意見がある場合には出してもらい、検討、議論をしていきたいと思うので、よろしく願う。

—事務連絡—

【西山会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・協議会等日程 12月17日（月）午後6時30分～ 高田公園オーレンプラザ  
1月22日（火）午後6時30分～ 福祉交流プラザ

12月の地域協議会では、来年度における高田区地域活動支援事業のルールについて協議する予定であり、委員へは事前に意見を照会し、まとめたものを、協議会の資料としたいと思っている。

【西山会長】

委員全員が集まった際に何も無い状態で議論するよりも、事前に照会し、出されたものをたたき台として話し合いをした方がよいと思うがいかが。なお、会議当日に出された意見も、駄目ということはないので、よろしく願う。

【佐藤センター長】

- ・配布資料 地域活動フォーラム開催の案内

## 地域教育往来 54 号

### 【西山会長】

地域活動フォーラムの参加委員に費用弁償は支払われるのか。

### 【佐藤センター長】

参加された委員には後日費用弁償の請求書を送付する予定である。

### 【西山会長】

地域活動フォーラムに参加する委員には1,200円の費用弁償が支払われるとのことなので、よろしく願います。

事務局の説明に質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

## 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。